

昨年秋に実施しました「地域のつながりを考えるアンケート調査」の結果概要をご報告します。

京都市内の3地区（都心界限地区、上烏羽地区、成逸地区）では近隣関係や日常のおつきあい、町内会活動の状況などを把握して、まちの特性を踏まえた「地域のつながりの再構築」を目指した調査研究を共同で実施しています。その調査研究の一環として、各地区の居住者の皆様にご近所づきあいや町内会のことについてのお考えをお伺いすることを目的に、アンケート調査を昨年秋に実施しました。

成逸学区におきましても、成逸住民福祉協議会の協力のもと、成逸まちづくり推進委員会と立命館大学産業社会学部と共同でアンケート調査を実施しました。その集計結果がまとまりましたので、概要を報告します。かなり詳細なデータと文字が並ぶかと思いますが、目を通して頂き、今後の町内会活動の参考にして頂きたいと思っております。

なお、今回は成逸学区の独自集計分を報告します。今後3地区との比較研究成果がまとまりましたら、改めてみなさんに報告します。

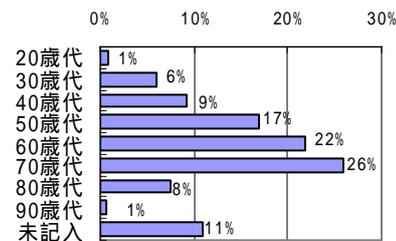
## (1) 回答者の属性

町内会を通じて515票の回答を得た。内訳は、513名が町内会加入で、2名が未加入である。また、別途マンション居住者から郵送回収で12票の回答を得た。以下の整理分析は町内会回収分を基本に整理した。

### 回答者の年齢

- 町内会を通じて多世代からの回答であるが、70歳代が26%と最も多く、60歳以上で半数を超える。アンケート結果は高齢者の方の意向が大きく反映している。

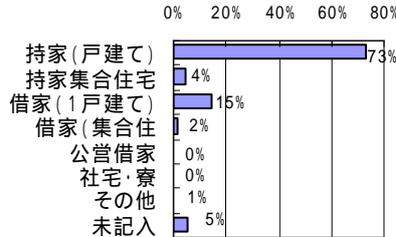
#### 回答者の年齢区分



### 住まいの形式

- 戸建ての持家の方が73%と最も多く、戸建ての借家の方が15%と続く。アパートやマンション等の方は30名、5%と非常に少ない回答である。

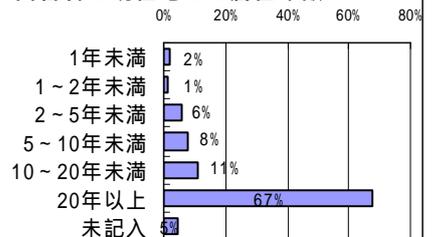
#### 回答者の住まいの形式



### 現住宅での居住年数

- 20年以上の居住年数の方が67%と最も多い。5年未満の方が9%ある。居住開始の世代
- 親の代から居住の回答が56%と半数を超えている。

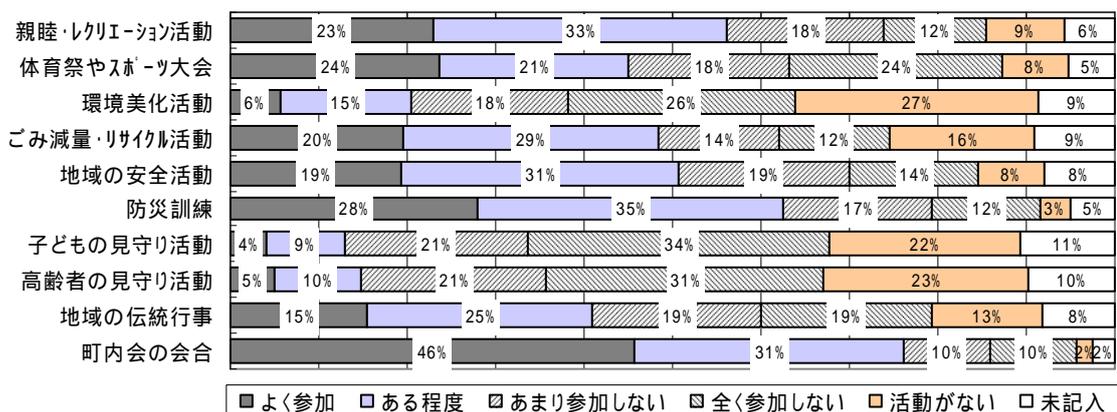
#### 回答者の現住宅での居住年数



## (2) 町内会活動への参加程度

- よく参加する活動は「町内会の会合」で46%、「防災訓練」が28%となっている。ある程度の参加までを含めると「町内会の会合」77%、「防災訓練」63%、「親睦活動等」55%、「地域の安全活動」50%で半数を超えている。
- 参加度が低い活動は「子どもの見守り活動」13%、「高齢者の見守り活動」15%、「環境美化活動」21%である。
- 参加しないとの回答が半数を超える活動は「子どもの見守り活動」55%、「高齢者の見守り活動」52%である。回答者の町内会活動への参加では「子どもや高齢者の見守り活動」への参加が低い傾向が顕著に表れている。

### 問2 町内会活動への参加程度

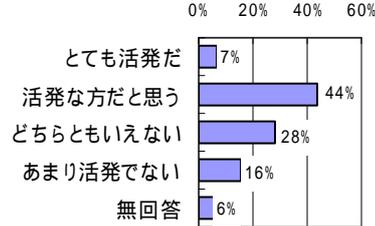


(2)町内会の活動等について

町内会活動の活発度

- ・町内会活動の活発度について「活発」との回答が51%と半数を超えるが、活発でないとの回答が16%見られる。
- やや活発度の評価が低い。

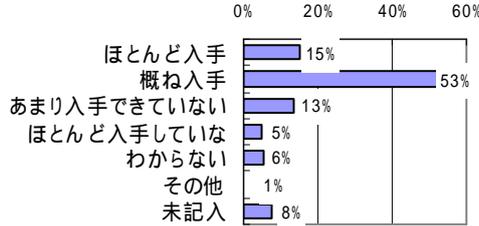
問3 町内会活動の活発度



町内会等の活動情報の入手状況

- ・町内会等の活動情報の入手状況については概ね「入手できている」との回答が68%、「入手できていない」との回答が18%見られる。
- 入手できていない町内会会員の2割弱の方への対応が必要。

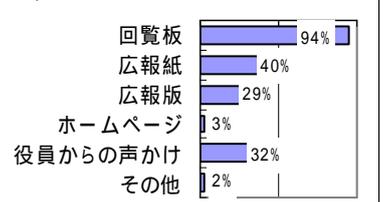
問7町内会等の活動情報の入手度



町内会等の活動情報源

- ・情報源は回答者の94%が回覧板を情報源としている。広報紙、広報版、役員からの声かけが約3割を超え、有効な情報源と言える。
- 回覧板の有効性が確認できる。ホームページの効果は低い。

問8町内会等の活動情報源 (MA)

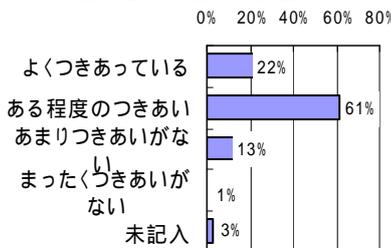


(3)近所づきあいについて

隣近所とのつきあいの程度

- ・隣近所とつきあいがあるとの回答が全体で83%を占める。一方、つきあいが無いとの回答が14%見られる。
- 隣近所のつきあいは結構活発な地域と言える。

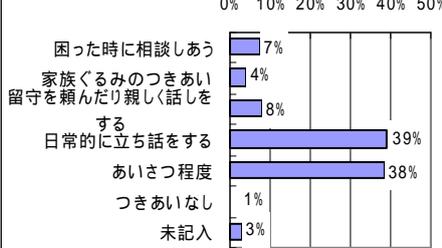
問10隣近所とのつきあい程度



近所づきあいの程度

- ・近所づきあいの程度は「日常的に立ち話をする」39%、「あいさつ程度」38%と多い。「困った時に相談する」等の親密なつきあいも2割近くある。
- 近所づきあいの程度も比較的親密度の高いつきあいの地区である。

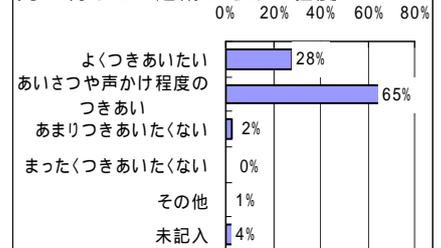
問11近所づきあいの程度



好ましいと思える近所づきあい

- ・「よくつきあいたい」が28%、「あいさつ程度等のつきあい」が65%で、両方で90%を超える。
- ほとんどの方が「あいさつ程度」以上の近所づきあいを望んでいる。

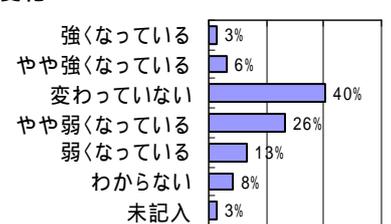
問12好ましい近所づきあい程度



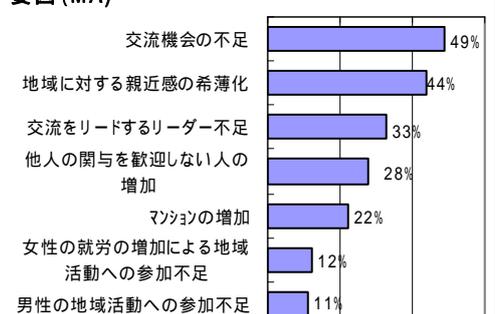
(4)地域のつながりの10年の変化

- ・地域のつながりのこの10年間の変化については、「変わっていない」が40%と最も多く、「弱くなっている」が39%、「強くなっている」が9%である。
- やや地域のつながりが弱くなっている傾向が伺える。
- ・弱くなっている要因については回答のあった209件を見ると、「交流機会の不足」49%、「地域に対する親近感の希薄化」44%と4割を超える。
- ・「マンションの増加」が要因とする回答は22%である。
- 要因は地域全般の課題によるもので、マンションも一要因ではある。

問13地域のつながりの10年の変化



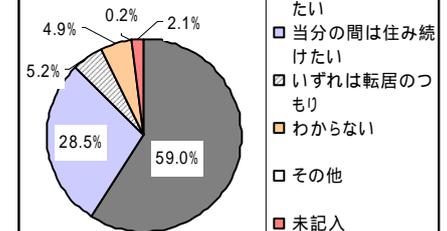
問14地域のつながりが弱くなっている要因 (MA)



(5)今後の居住意向

- ・今後の居住意向は「このまま住み続けたい」と定住の意向が全体59%、「当分の間は住み続けたい」とする回答を合わせると9割近く、持家の方の定住意向は9割を超える。
- 定住意向は高い地域と言える。

問15今後の居住意向

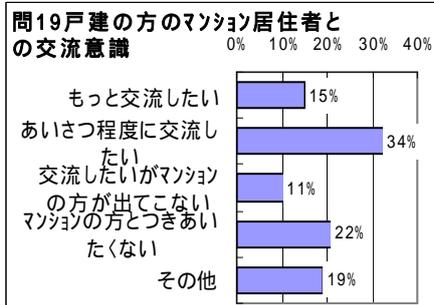
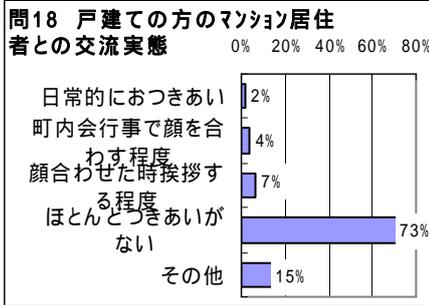


(6) 戸建ての方とマンション居住者との交流について

戸建ての方からのマンション居住者との交流について（戸建て層 472 票）

- ・戸建て等の方のマンション居住者との交流の程度は「ほとんどつきあいが無い」が 73% と非常に高い。その他は近所にマンションがないことでの回答が多い。
- ・戸建て等の方のマンション居住者との望む交流は「あいさつ程度の交流」の回答が 34% と最も多く、交流意向全体では 49% である。一方、「つきあいたくない」との回答が 22% と高い傾向が見られる。

回答者の回りに直接に影響するマンションが少ないせいもあるが、戸建ての方はマンションの方の交流が少なく、交流を望む意向もやや低い。



マンション居住者からの戸建ての方との交流について（マンション層 14 票）

- ・マンション居住者の戸建ての方との交流は「ほとんどつきあいが無い」との回答が 3 人で、それ以外の回答は挨拶程度以上の交流である。
  - ・マンション居住者が交流の意向はすべて「つきあい」の項目の回答であり、マンション居住者側ではつきあいたくないとの回答は見られない。
- 回答から見ると、マンション居住者は戸建ての方との交流を望む意向を持っている。

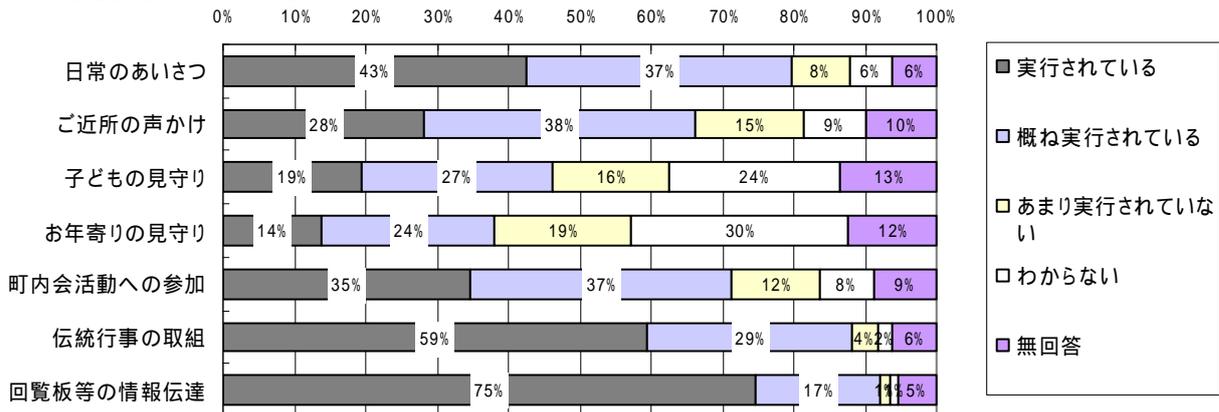
(7) 町内会活動等の取組に対する評価

- ・町内会活動の取組の評価では「回覧板等の情報伝達」が 92%、「伝統行事の取組」が 88%、「日常のあいさつ」が 80% と非常に評価が高い。

- ・一方、「子どもの見守り」と「お年寄りの見守り」の評価は実行されているとの評価が半数を切っており、特に「お年寄りの見守り」については「実行されていない」と「わからない」の回答がほぼ半数の回答となっている。

問2の「町内会活動の参加の状況」と同様に、回答者の町内会活動の取組に対する評価で「子どもや高齢者の見守り活動」への取組の評価が低い。今回の回答者の年齢層が高く、活動内容を十分に把握していないとも言えるが、町内会活動に密接に関わる町民の意向結果であり、活動内容や活動の情報提供について再考が必要と思われる。

問27 町内会活動等の取組の評価



(8) 「せいつ方式」の認知度

- ・「せいつ方式」の認知度は「知っている」が 29%、71% が知らないとの回答である。

認知度が低く、情報提供が必要。

問28 せいつ方式の認知度



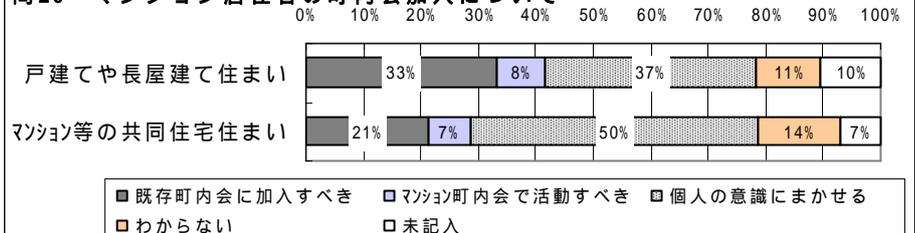
(9) マンション居住者の町内会加入について

- ・マンション居住者の町内会加入は、戸建て居住者では、「個人の意識に任せる」が 37% で、次いで「既存町内会に加入すべき」が 33% となっている。

- ・マンション居住者は回答数が少ないが、半数が「個人の意識にまかせる」との意見である。

回答ではマンション居住者の町内会加入は個人の意識を尊重する意見が多い。

問29 マンション居住者の町内会加入について



(10)自由記述欄の主な意見

意見項目	意見の概要
近所づきあいに ついて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔からつきあひも深く、子どもを皆で見守ってもらえて安心だ。</li> <li>・私の町内は世帯数が少ないが、おしゃべりしたり、仲の良いおつきあひをしている。</li> <li>・この家で生まれ、この町内で育ち、この家で年老いていく。何気ないそんな現状を幸せというなら、身近にいてくれる人皆に温かい親しみを感じます。</li> </ul>
挨拶が大切	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶が不足している。人間関係の原点である。</li> <li>・子どもには近隣の方やお年寄りに挨拶できるような子に育ててほしい。</li> <li>・日頃の挨拶は欠かさずするよう心掛け、あまり深く家庭内に入り込まないようにも気をつけている。</li> </ul>
新旧交流、世代交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内に新しい人が入ってきて変わったかなと思う。町内全体のつながりが弱いところもある。</li> <li>・ワンルームマンションが町内にあり、防火、防犯面での協力が期待できず不安を抱いている。</li> <li>・前から住んでいる人には優しいが、マンションの人にはよそもの扱いされている感じがする。</li> <li>・単身で地域での存在感は薄いと思われます。隣との関わりは深くありたいですが、個人的な生活区域にまで干渉されることのバランスが大切でしょう。</li> <li>・若い世帯は近所の人にあまり干渉されたくないと思う人が多く、古くからの方は新しいことを受け入れることが苦手な方が多い。互いが近所づきあひの良い面を認識できれば、もっと交流が増える。</li> </ul>
配慮も必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値観の違いや健康状態、経済状況などで、近隣の関係が希薄化しやすいことを理解してほしい。</li> <li>・人の家のことまでかなり気にされている方が近くにいと少し息苦しいことがある。</li> </ul>
町内会加入促進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしても好まない人もあるかもしれないが、なるべく多く加入してもらって交流する。</li> <li>・基本的には町内会に加入すべき。行政も広報の手段として自治会や町内会を利用しているのだから町内会加入促進の施策を推進すべき。</li> </ul>
町内会等活動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員になると市民新聞配布や広報板が結構大変で、一人暮らしの人は無理だと思う。</li> <li>・町内会で感じるのは、何年間かすると会長にならないといけないうこと。町内会全員で手伝って、手助けしてスムーズに楽しく盛り上げるのが町内会です。</li> <li>・夫婦共働きで子どもは地元の保育施設に通っていないので、町内会費の支払いに着いては全く問題ないが、行事参加は負担に感じている。同じような人は多いと思う。</li> <li>・住協への町費支出が負担になっている。徴収金額を軽減すべき。何年計画でもよい。</li> <li>・町内会の活動は大変なこともあるが、各世帯が少しずつの負担や同じ活動を共にすることでつながりが深くなっていくもので、積極的に参加したいと思う。</li> <li>・せいいつ方式などのまちづくりの政策が住民によく伝わっていない。もっと周知することが必要。</li> <li>・これまでいろんな学区の行事に参加させていただいているが、30代～40代くらいの方が少ないので、もっと若い世代の方が楽しんで参加できるような行事があれば良いと思う。</li> </ul>

アンケート調査結果のまとめ

今回実施した「地域のつながりを考えるアンケート調査」の結果からは町内会活動等に対する以下のような取組の検討方針案が整理できる。この方針案を基本にさらに協議を重ね、具体的な取組活動を整理していくことが求められる。

項目	アンケート結果からみる課題	今後の取組検討方針
町内会活動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加および取組評価で「子どもや高齢者への見守り活動」への取組の評価が低い結果となっている。</li> <li>・町内会活動についてやや活発度が低いとの評価。</li> </ul>	<p>少子高齢化の中、世代構成に応じた町内会活動の内容とその情報提供についての再考。</p> <p>現状の情報提供方法を基本に、さらに丁寧に住民の手元に届く方法の再考。</p> <p>ご近所づきあひのほど良いつきあひの維持・向上。</p> <p>戸建ての方の新しい住民を迎え、交流する意識を高めるための取組や情報提供の充実。</p> <p>個人が入りたいと思える町内会活動とその情報提供の充実。</p>
活動情報の提供について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね情報提供はできているが、入手できていない2割ほどの方は情報提供が課題。</li> <li>・情報源としては「回覧板」が有効である。</li> </ul>	
近所づきあひについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所づきあひは結構活発だとの意見が多い。</li> <li>・ほとんどの方が「あいさつ程度」以上の近所づきあひを望む。</li> </ul>	
戸建ての方とマンションの方の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸建ての方はマンションの方との交流が少なく、交流を望む意向も低い傾向である。</li> <li>・マンションの方は戸建ての方と交流意向を持っている。</li> </ul>	
町内会加入促進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション居住者の町内会加入は「個人の意思を尊重する」意見が多い。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せいいつ方式の学区での認知度は低く、もっと丁寧な情報提供が必要といえる。</li> </ul>	

成逸住民福祉協議会のホームページが復活しましたので、ご覧下さい。《URL: <http://seiitujukyo.org/>》

発行：成逸まちづくり推進委員会

協力：立命館大学産業社会学部石本ゼミ 成逸班